

■効果の見える治水事業
徳島県 山口谷川 総合流域防災事業

徳島県西部総合県民局
県土整備部長 重本 誠司



○概要

徳島県西部の東みよし町中庄に位置する山口谷川流域では、急峻な地形と脆弱な地質により、これまで何度も大きな土砂災害に見舞われてきました。このため、昭和27年に砂防事業に着手して以降、数多くの砂防堰堤及び床固を整備してまいりました。

これらの砂防施設は、完成から長期間が経過し、劣化や損傷が著しく、なかでも昭和35年竣工のアーチ式砂防堰堤は、堤体の空洞化や漏水が随所に確認され、基礎部も洗掘を受けるなど、老朽化の進行が著しい状況にありました。また、本堰堤は、ハイダム（H=15m）かつ水たまりダムでもあり、倒壊した場合、甚大な被害をもたらすおそれがあることから、老朽化対策が急務でありました。

平成24年度より総合流域防災事業による砂防堰堤の補強工事に着手、平成27年度末に完成したことにより、土砂災害に対する流域の安全度を確保することができました。

西部総合県民局管内には、ほかにも完成から長期間経過した砂防施設が数多く存在しています。今後とも既設砂防施設の現状把握、健全度評価はもとより、必要に応じたハード対策を行うことにより、「安全安心・強靱とくしま」の実現に取り組んで参ります。

○事業内容

- ・事業箇所 徳島県三好郡東みよし町中庄
- ・整備内容 アーチ式砂防堰堤補強 1基（コンクリート腹付け H=5.0m L=40.4m）

位置図



山口谷川総合流域防災事業

本堤漏水状況



洪水時(施工中)



本堤補強完了(コンクリート腹付け)



「安全・安心のまちづくり」をめざして

徳島県東みよし町長 川原 義朗



本町は、清らかな水が流れる吉野川を中心に、緑あふれる自然豊かなまちです。また、地域に伝わる伝統や文化財も多く残っており、古代からの人々の営みを感じることのできるまちでもあります。

私たちは、目指すべきまちの将来像を「創造・元気交流空間」とし、“個性・交流・自立”をキーワードに、新しい魅力あるふるさとづくりに取り組んでいます。その中で、住民と互いに連携・協力を図るとともに、住んで良かった、ずっと暮らしたいと感じることができるまちづくりを目指し、住民本位の町政を基本として、住民・議会・行政がともに協働しながら取り組んでいるところです。

山間部から流れる吉野川などが豊富な水資源をもたらす一方、土砂災害や水害に注意しなければいけない地域でもあります。特に平成16年の連続した台風上陸の際には記録的な豪雨が発生し、JR徳島本線の土砂災害や、床上・床下浸水が140戸を超えるなど甚大な被害となりました。

このような中、砂防堰堤の整備に加え、昭和59年度から事業着手していた「加茂第一堤防」が平成25年度に完成、平成27年度からは「加茂第二堤防」を築堤しています。この堤防が完成することで、吉野川の増水による浸水被害は、0戸になる予定です。また、住民へ自主防災組織の設置を推奨しています。組織率は、平成28年4月時点で82%となりました。ハザードマップを利用した防災訓練等を住民が率先して行い、地域の防災・減災力を高めています。

今後とも、ハード面、ソフト面が一体となった総合的な防災体制を確立し、住民が安全で安心な暮らしができる町づくりに取り組んでいきます。

